

整形外科の医師が代わりました

7月から新津文和医師に代わり、内田美緒医師が赴任しましたので紹介いたします。
合わせて外来診療案内も更新しましたので、同封いたします。

うちだ みお
♥ 内田 美緒



♥ 整形外科医

♥ 飯田市立病院を経て着任

専門分野はまだありません。

今のところは上肢に興味があります

ひとこと

岡谷は時折通ることはありましたが、拠点
を置くのは初めてです。

診療含め不慣れなことが多いですが、ご迷
惑をおかけしないよう精進して参ります。

よろしく申し上げます。

(あと、おいしいご飯屋さんや飲み屋さんが
あれば、教えて頂きたいです by 心の声)

お願い!

日頃より患者様のご紹介やご協力を賜り、
ありがとうございます。

ご紹介にあたり、お名前の読み取りに苦慮
することがあります。スムーズな事務処理の
ため、紹介状の氏名にフリガナを記載して
いただきますようお願いいたします。

また、画像情報ですが、ごくまれに読み込
みのできないデータがあります。画像を
DICOM 規格のフォーマットで CD 作成を
していただくと読み込めない確率がぐん
と減ります。



DICOM とは、CT や MRI,CR など撮影した医用画像のフォーマットと、それらを扱う医用画像機
器間の通信プロトコル定義した標準規格である (ウィキペディアより)

骨密度は上がります！

7月1日（土）に『骨粗しょう症と骨折治療の最前線』と題して、市民公開講座が行われました。

岡谷市民病院 院長内山茂晴医師の特別講演で、
まず大腿骨頸部骨折について話がありました。

大腿骨頸部骨折は3分に1件発生し、

その36%が元の状態に戻れない。

4人に1人介護が必要になる。

そこにかかるお金は…5年で〇〇〇〇万円

お金を貯めるのは大事！（笑）



骨の働きや役割そしてなぜ「骨粗しょう症」になってしまうのかを、イメージ画像を使って分かりやすく話されました。会場では、『閉経により女性ホルモンが減ることで破骨細胞が活発となって溶骨が進み、骨芽細胞による修復が追いつかない』の画像を食い入るように見つめ、「80歳台の7～8割が骨粗しょう症です」の言葉に、うんうん！とうなずいている妙齢の女性たちが沢山いました。

また、シンポジウムでは田中医師より「骨折の治療」、北島看護師長より「入院生活」、飯島理学療法士より「術後のリハビリ」、和田薬剤師より「骨粗しょう症の治療薬」について話されました。

術後のリハビリの様子と回復過程を動画で紹介し、「ここまで回復して退院となりました」と話された時には、会場からほっとしたようなため息が聞かれました。薬については、「ビスホスホネート」と「ロモソゾマブ」に焦点をあて、作用機序の特徴、服用にあたっての注意事項について話がありました。皆さん一生懸命にメモを取っていて、興味の高さを感じました。



終了後、会場より『「糖尿病の薬をたくさん飲んでいるので、骨粗しょう症の薬は飲まなくていい』と言われたけど…」「24歳の娘が足を捻っただけで骨折した」など身近な質問があり、春日医師をはじめ先生方がわかりやすく答えていました。

今回の市民公開講座は、ホームページに掲載、シルキーチャンネルで放映する予定です。宜しかったらご覧ください。